

## 27PE-am001

東京理科大学薬学部薬学科における早期体験学習の充実へ向けた試み

○嶋田 修治<sup>1</sup>, 青山 隆夫<sup>1</sup>, 太田 隆文<sup>1</sup>, 海保 房夫<sup>1</sup>, 小島 周二<sup>1</sup>, 西谷 潔<sup>1</sup>,  
大島 広行<sup>1</sup>(東京理大薬)

【目的】早期体験学習は薬学部卒業生が活躍する現場を入学後の早い時期に体験することで、学習に対するモチベーションを高めて学生生活を有意義にすることを目的としている。東京理科大学薬学部では、病院、薬局および製薬企業見学の3項目からなる早期体験学習を昨年度実施し、一定の成果を収めた。今年度はさらなる内容の充実を目指し、いくつかの選択項目を追加・実施したので報告する。

【方法】昨年度に実施した病院と薬局の見学は全学生(90名)の必修項目とし、製薬企業見学(20名)は選択項目に変更した。さらに今年度は選択項目に、特殊な装具を装着して高齢者を疑似体験する不自由体験(14名)、自動体外式除細動器の使用法と基本的心肺蘇生法などを学ぶ普通救命講習(36名)および人体解剖実習見学(20名)を加えた。学生は事前の希望調査に従い、4項目から1つを選択した。学生へは見学・体験終了後に感想文を提出させ、さらに選択した項目の満足度や学習のモチベーションの変化などに関するアンケート調査を実施した。

【結果・考察】病院と薬局の見学終了後に実施した報告会と感想文からは、チーム医療やコミュニケーション能力の重要性を学生が強く認識していることが感じられた。一方、今年度新たに実施した選択項目からは、身体機能低下者への配慮、応急手当が必要な場面に遭遇した時にためらわず勇気をもって救命処置をすることの大切さ、人体構造の巧妙さと生命の尊厳などを強く認識したとする感想が見られた。またこれらの項目を通して、将来医療職を目指す者の態度や心得に、強い影響を受けたとする感想が多く見られた。以上の結果から、早期体験学習は病院と薬局の見学のみならず、介護、福祉、救命処置および医学など幅広い分野を体験することで、学習へのより強い動機づけが得られると思われる。